

Globally connected. Rooted in Japan.
Your most trusted partner.

2026年度1Q実績

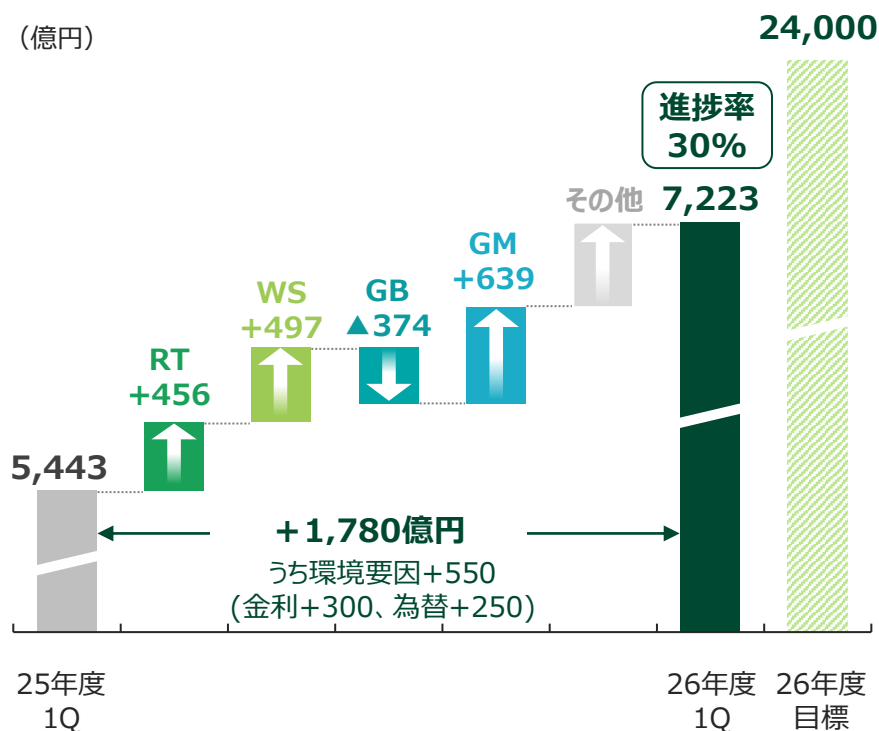
2026年7月31日

決算ハイライト

- ◆ 連結業務純益・親会社株主純利益はともに+1,000億円超の増益、進捗率も約30%と順調な滑り出し
- ◆ 良好な業務環境下での国内ビジネスの成長に加え、株高を捉えた市場事業部門の好調が増益に寄与
グローバル事業部門は、収益性の改善に向けて案件を選別しており減益
- ◆ 中東情勢の影響は現時点で顕在化せず。国内利上げ等の好環境、本業の増益も踏まえアップサイドを追求

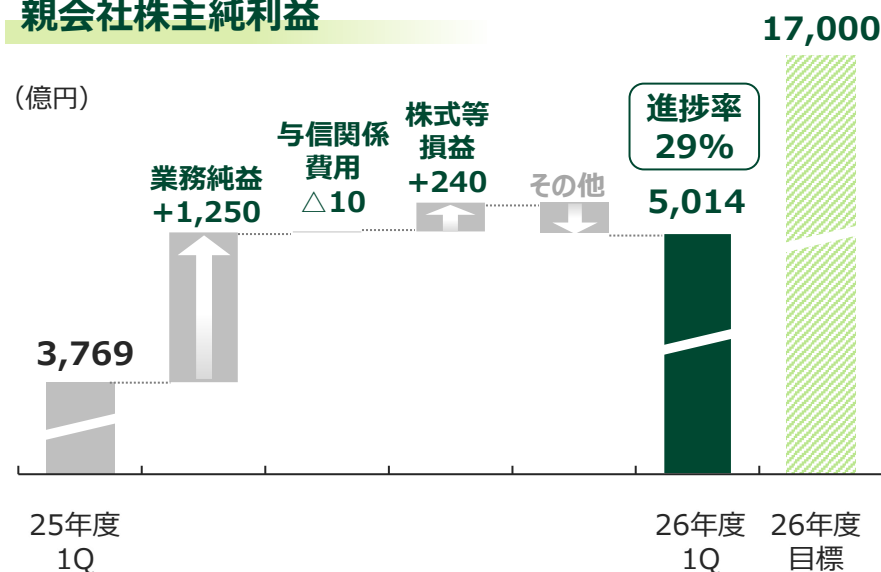
連結業務純益

(億円)



親会社株主純利益

(億円)



市場指標

		26年度計画前提	26/6末
政策金利	日本	0.75%	1.0%
為替	1ドル	150円	162.39円

損益の概要

	(億円)	26年度 1Q	前年 同期比	26年度 目標
1 連結粗利益		14,034	+3,157	
2 営業経費		▲7,122	▲1,125	
(経費率)		50.7%	△4.4%	
3 持分法投資損益		311	▲251	
4 連結業務純益	進捗率 30%	7,223	+1,780	24,000
5 与信関係費用		▲748	△9	▲3,400
6 株式等損益		755	+344	
7 その他		▲299	▲35	
8 経常利益		6,931	+2,098	23,900
9 特別損益		▲16	+1	
10 税コスト		▲1,855	▲832	
11 親会社株主純利益	29%	5,014	+1,245	17,000
12 ROTE		13.8%	+2.5%	
13 東証基準ROE		12.6%	+2.3%	
14 株主資本ROE		17.1%	+3.5%	

● 連結粗利益（為替影響*1: +520）

国内における資金利益の増加に加え、国内ホールセールや資産運用、決済ビジネス等での手数料収入の増加により増益

● 営業経費（為替影響*1: ▲280）

インフレ影響や売上連動費等により増加するも、トップラインの伸長により、経費率は大幅に改善

● 持分法投資損益（為替影響*1: +10）

SMBCACにおける保険金受領の剥落（▲130）に加え、東亜銀行の外部会社化に伴う影響により減益

● 与信関係費用

中東情勢に関連する影響は顕在化せず、通期予想に対しては標準進捗の範囲内で推移

● 株式等損益

政策保有株式の売却益は減少（390、YoY▲220）するも、東亜銀行株式の売却に伴う損失の剥落（+280）に加え、株高を捉えたETF売却益増加（460、YoY+320）により増益

*1 BC海外支店PL（取引日レート）・海外現法PL（期末日レート）等の為替変動影響

(参考) 主要グループ会社の業績

▶ SMBC

	(億円)	26年度 1Q	前年 同期比
1 業務粗利益		7,951	+2,167
2 うち資金利益		5,756	+1,596
3 うち投資信託解約損益		596	+404
4 国内		3,953	+1,407
5 海外		1,803	+188
6 うち役務取引等利益		1,517	+201
7 国内		561	+10
8 海外		956	+190
9 うち特定取引利益 +その他業務利益		667	+370
10 うち国債等債券損益		▲198	▲341
11 経費		▲3,283	▲564
12 業務純益		4,668	+1,603
13 与信関係費用		▲139	▲85
14 株式等損益		727	+132
15 その他臨時損益		▲48	+175
16 当期純利益		3,766	+1,230

▶ SMBC以外の主要グループ会社

(左: 26年度1Q実績、右: 前年同期比)

(億円)	SMBC日興 ^{*1}		SMCC ^{*2}		SMBC信託	
業務粗利益	1,779	+490	2,314	+178	212	+38
経費	▲1,286	▲191	▲1,731	▲170	▲114	▲5
業務純益	493	+298	588	▲17	97	+33
当期純利益	371	+175	145	▲178	68	+7

(持分法適用)

	SMDAM ^{50%}		SMFL ^{*3 50%}	
業務粗利益	143	+40	953	▲16
経費	▲90	▲11	▲439	▲10
業務純益	53	+29	523	▲44
当期純利益	19	+11	254	▲159

*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース *2 SMBCCFの計数を含む

*3 内部管理ベース

円金利上昇影響

6月の政策金利引き上げ影響の+800億円を合わせ、今年度の資金利益は前年比+1,800億円
貸出金の残高・スプレッド増加や国債ポートフォリオの再構築等でさらなるアップサイドあり

政策金利
+0.25%あたり

初年度 5年目

➡➡➡

+1,100億円*1 +1,500億円*1

円貨B/S (26/6末)

(兆円)

運用

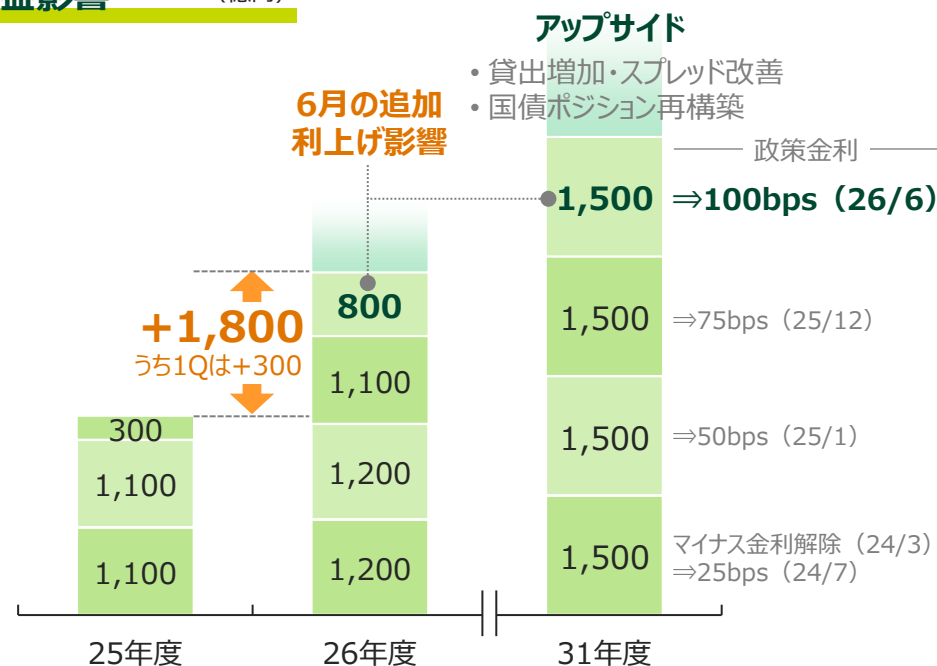
貸出金	70
市場連動	40
固定金利	20
プライム貸出等	10
市場性運用	60
日銀当座預金	50
短期国債	1
中長期国債	9
その他	20
円投等	

調達

預金	135
普通預金	90
定期預金	30
当座預金	15
その他	15
資本性調達	
市場性調達等	

収益影響

(億円)



*1 長期・短期金利ともに+25bpsずつ上昇の想定。預金金利は過去実績を使用

連結粗利益

国内貸出残高の増加に加え、金利上昇の追い風もあり資金利益は増加

役務取引等利益も、活発なコーポレートアクションの捕捉やOliveによる買物取扱高増加等により増益

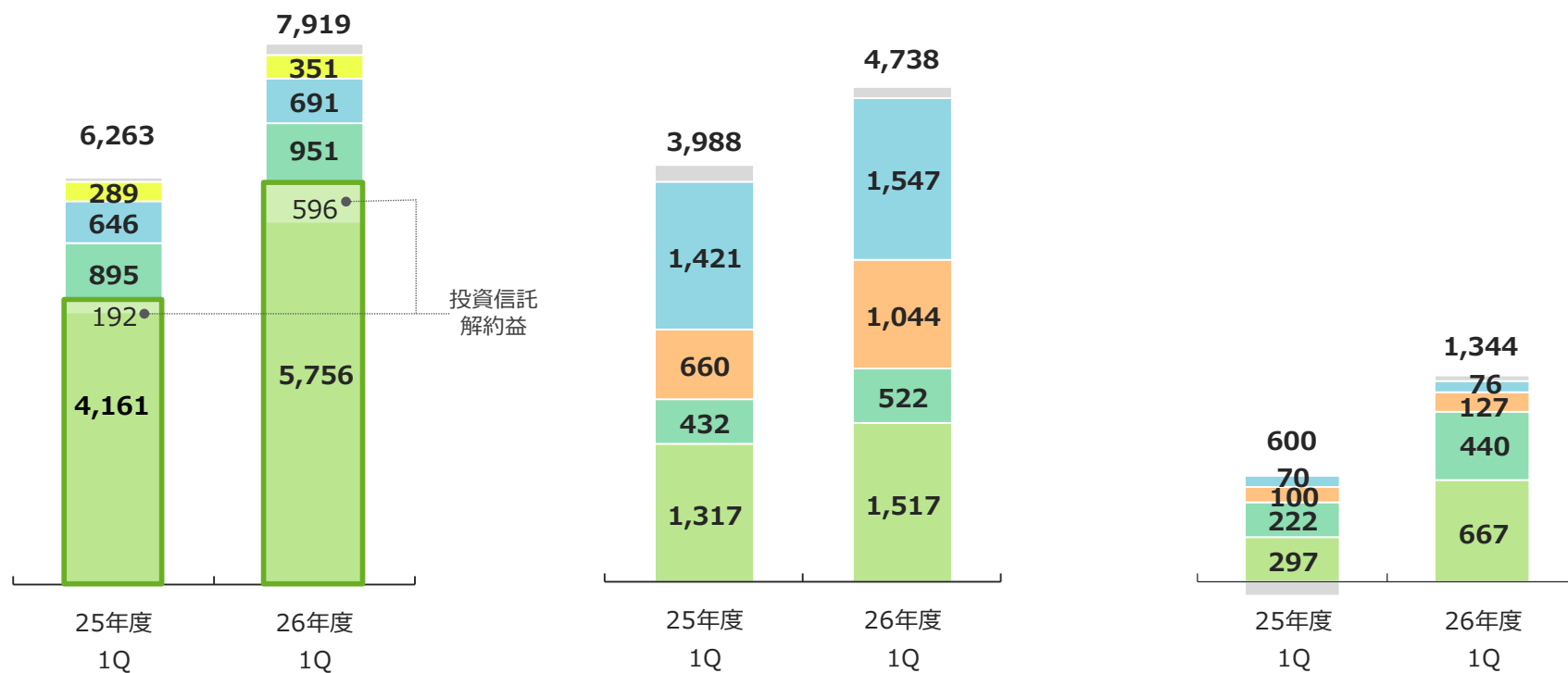
▶ 資金利益

▶ 役務取引等利益

▶ 特定取引 + その他業務利益

(億円)

■ SMBC ■ 海外銀行現法 ■ SMBC日興 ■ SMCC*¹ ■ SMICC ■ その他



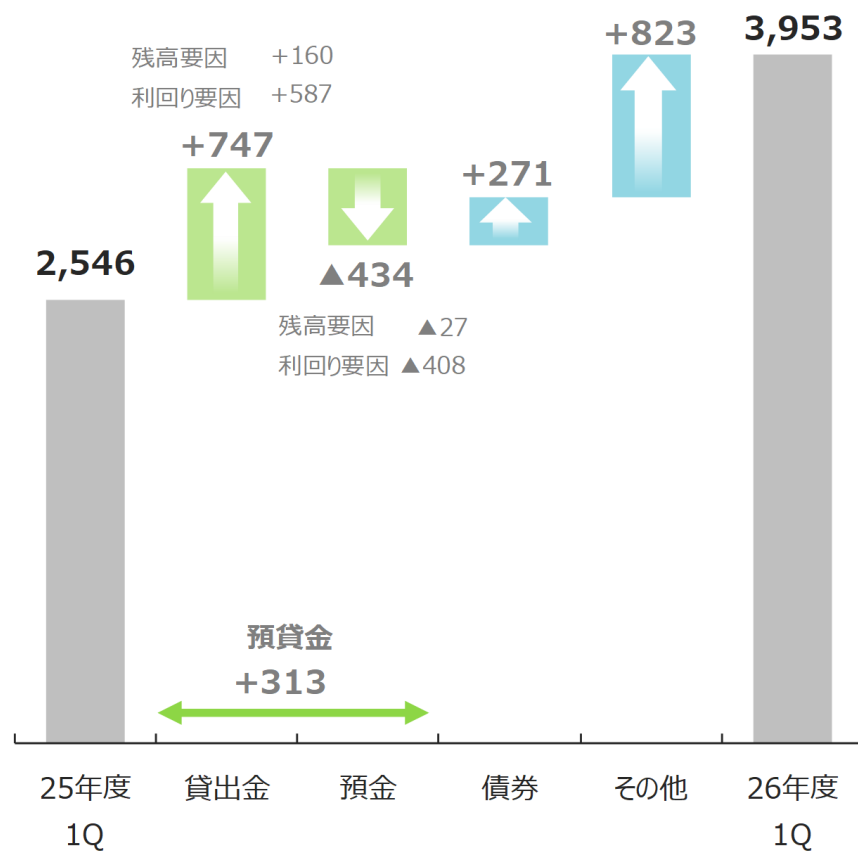
*1 SMBCCFの計数を含む

(参考) 資金利益の増減要因 (SMBC)

▶ 国内

- 市場金利上昇による預貸金利回り改善と貸出金の残高増加により、預貸金収益はプラス

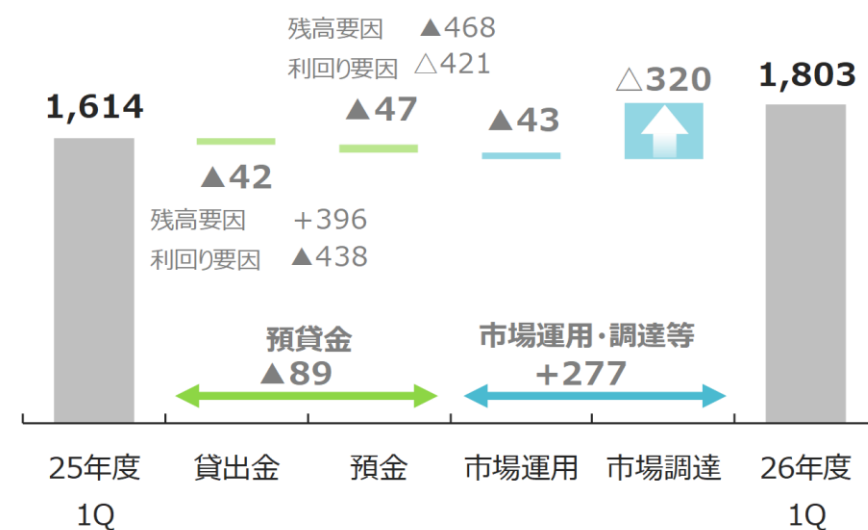
(億円)



▶ 海外

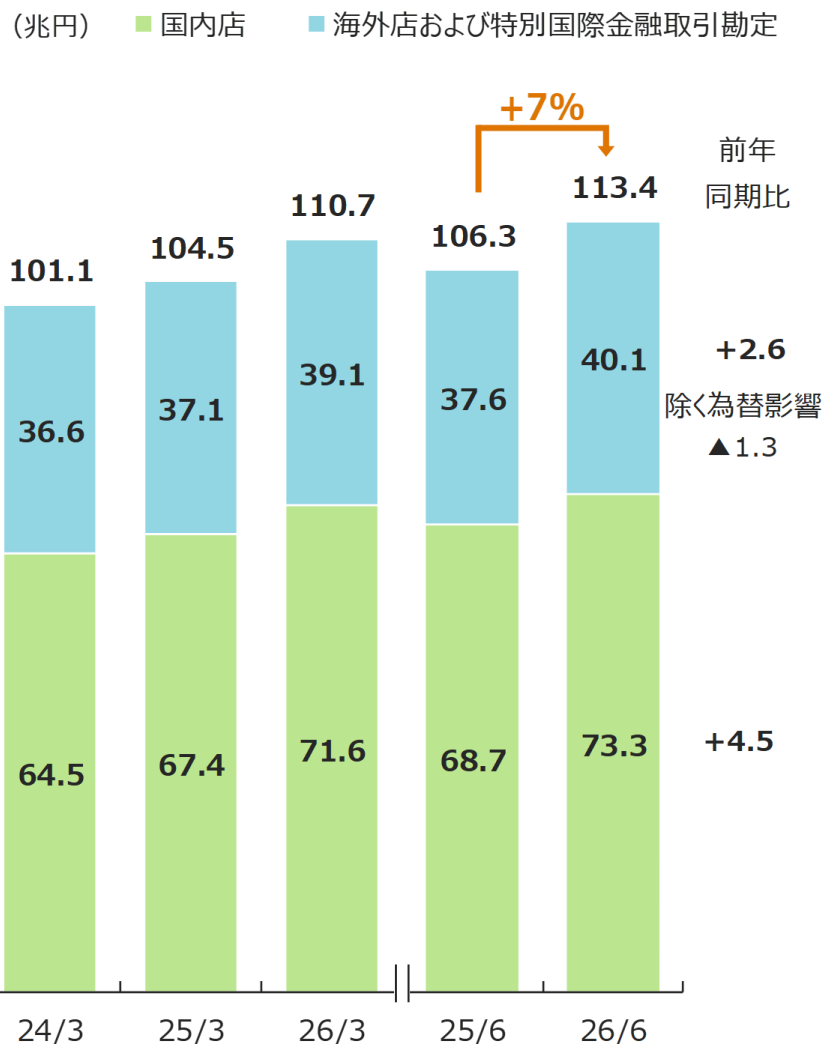
- 貸出残高は減少するも、為替影響により円建換算では増加また、欧米での利下げ影響に加え、外貨預金の獲得推進による残高増加により、預貸金収益はマイナス

(億円)



貸出金*1

▶ 貸出金残高



▶ 国内預貸金利回差

	26年度		25年度			
	1Q	前年同期比	1Q	2Q	3Q	4Q
貸出金利回	1.61	+0.35	1.26	1.30	1.34	1.47
預金等利回	0.30	▲0.12	0.18	0.19	0.19	0.26
預貸金利回差	1.31	+0.23	1.08	1.11	1.15	1.21

▶ 期中平均貸出金残高・スプレッド*2

	平均残高 (兆円)		スプレッド (%)	
	26年度 1Q	前年 同期比*4	26年度 1Q	前年 同期比
国内貸出	69.6	+4.9	0.68	+0.02
うち大企業	28.8	+4.4	0.59	+0.03
中堅・中小企業	24.1	+1.5	0.69	+0.02
個人	12.0	▲0.2	1.11	+0.02
海外運用資産 (億ドル) *3	3,473	▲195	1.43	+0.01

*1 SMBC *2 内部管理ベース

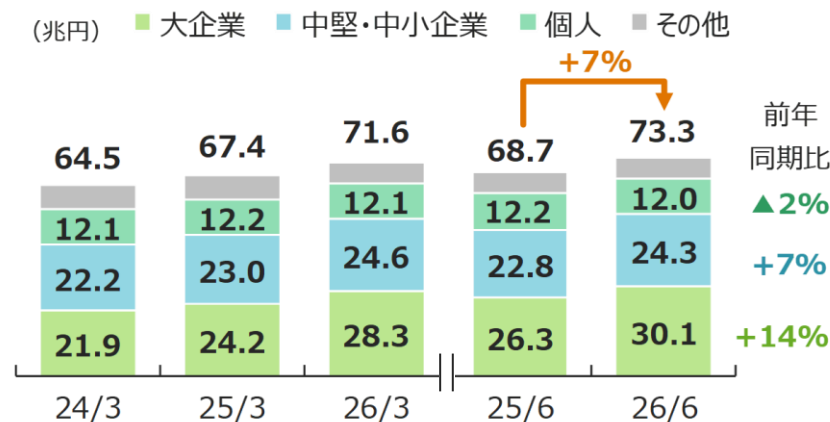
*3 SMBC、主要現地法人、SMBC信託等の合算。GBにおける貸出金・貿易手形・有価証券の合計。資金コスト対比のスプレッドを記載

*4 為替影響等調整後ベース

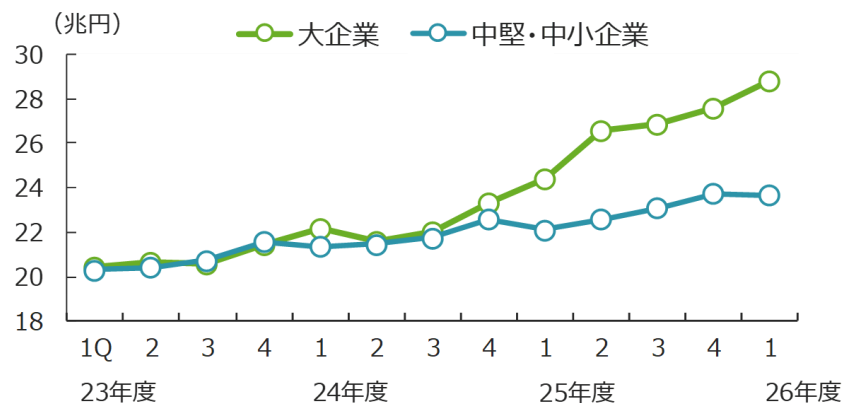
国内預貸金*1

活発な資金需要を捉えて法人向け貸出金残高は上昇、特に大企業は大口案件の捕捉もあり大幅に増加
個人預金はOlive効果を主因に増加、法人も大口先を含め運用ニーズの捕捉に注力し増加

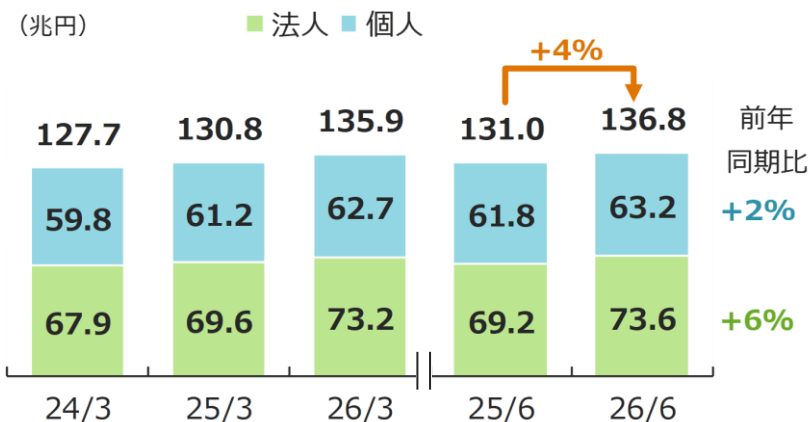
▶ 貸出金残高*2,3



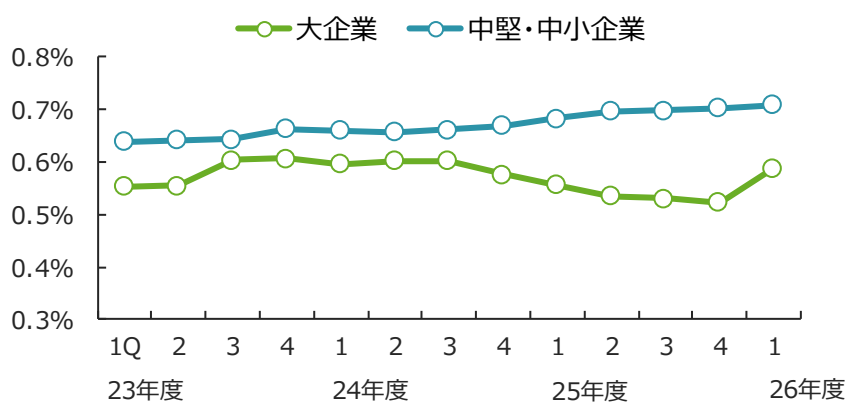
▶ 法人向け平均貸出金残高*2,4



▶ 預金残高



▶ 法人向け貸出金スプレッド*2,5



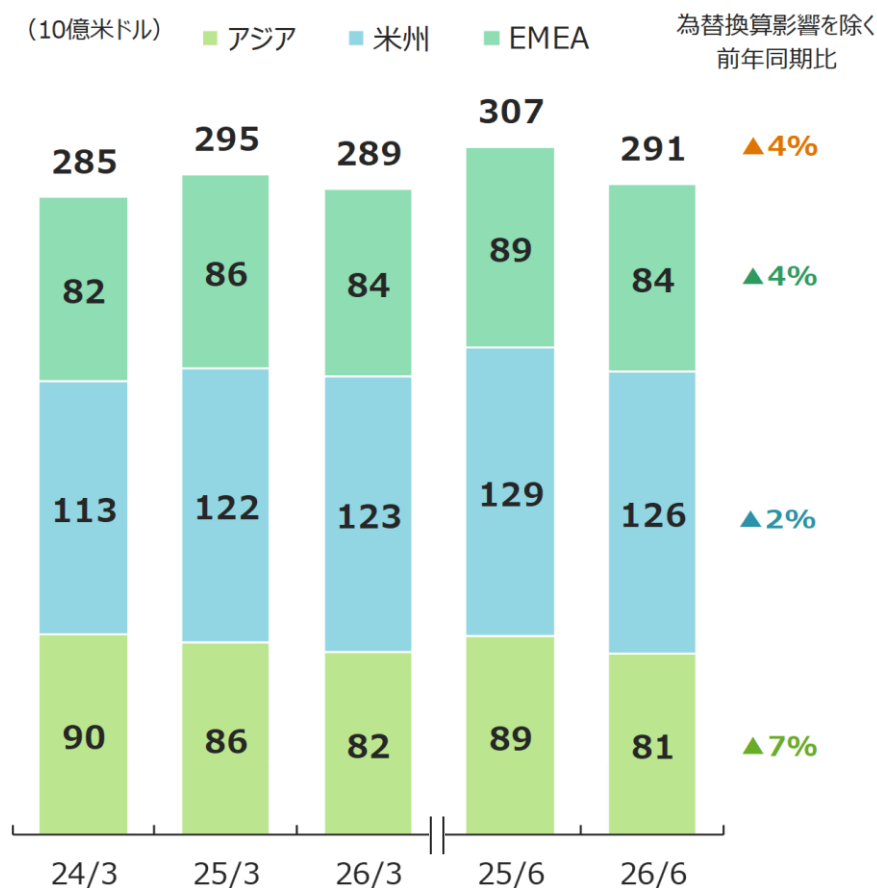
*1 SMBC *2 内部管理ベース *3 25/9より中堅・中小企業の集計方法を変更、遡及反映を実施

*4 四半期平残、政府向け等を除く。中堅・中小企業はエリア企業向けを除く *5 ストックベース、政府向け等を除く

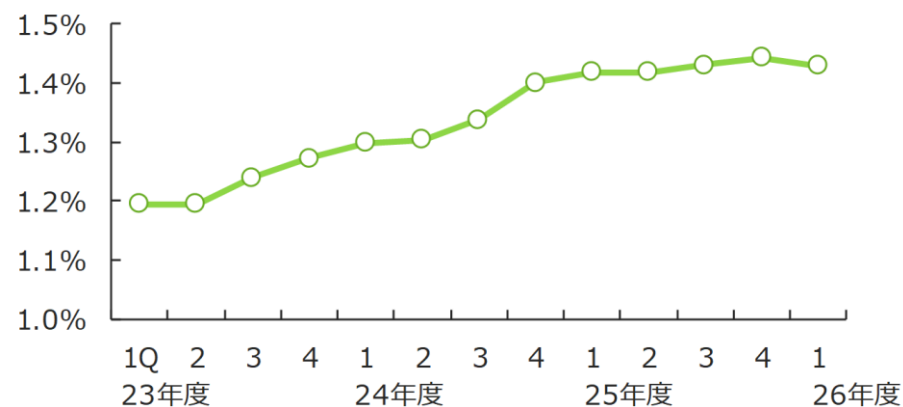
海外預貸金*1

低採算アセットの削減に加え、新規案件の選別的な取組により貸出金残高は減少するも、引き続き採算性を意識した運営を実施

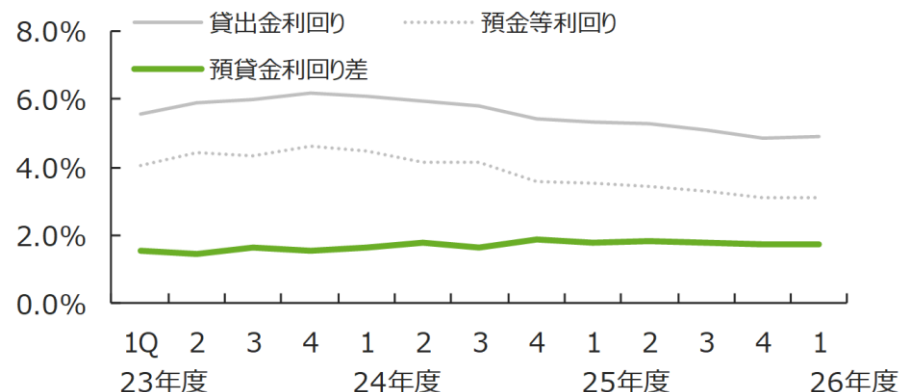
▶ 貸出金残高



▶ 貸出金スプレッド*2,3



▶ 預貸金利回差



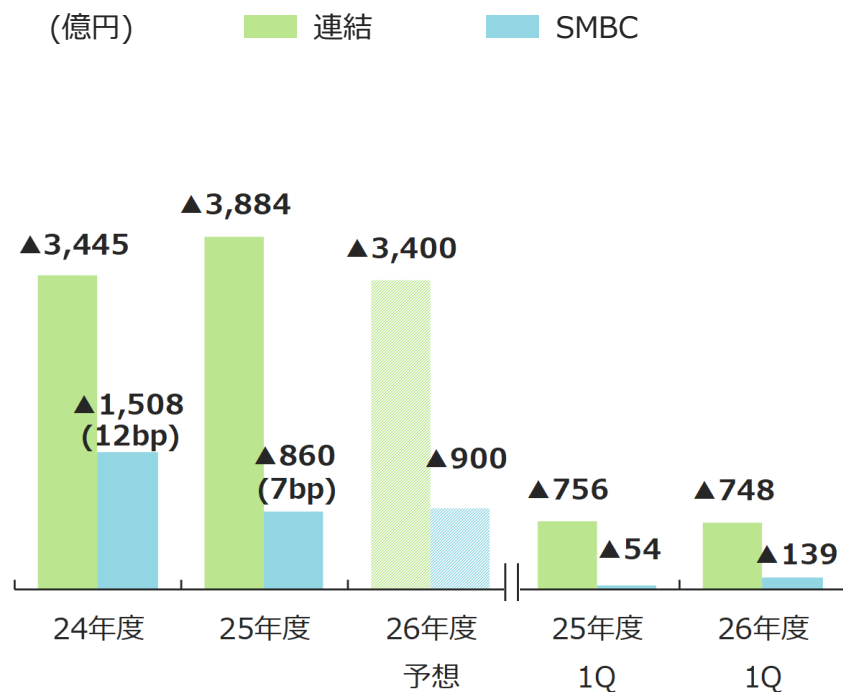
*1 内部管理ベース。SMBCと主要現地法人の合算

*2 ストックベース

*3 24年度より集計方法の変更、遡及反映を実施

アセットクオリティ

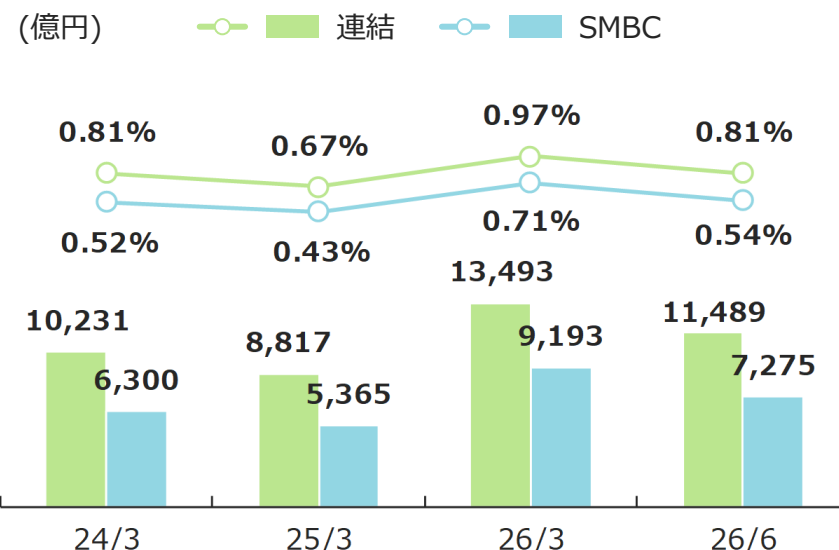
▶ 与信関係費用



連単差の主な内訳 (概数)

(億円)	26年度1Q	前年同期比
SMCC	▲ 380	▲ 30
うちSMBCCF	▲ 230	▲ 30
海外銀行現法	▲ 170	△ 50
SMICC	▲ 120	▲ 0

▶ 不良債権比率*1・残高



不良債権内訳 (連結) *2

	(億円)	(億円)	(億円)
国内	4,554	5,844	5,803
アジア	1,749	2,469	2,309
米州	1,175	3,673	2,541
EMEA	1,339	1,507	835

その他要注意先 (除く要管理債権)

	(兆円)	(兆円)	(兆円)
SMBC	1.7	1.2	1.1

総与信末残

	(兆円)	(兆円)	(兆円)
連結	131	139	142
SMBC	123	130	134

*1 不良債権比率 = 銀行法および再生法に基づく債権残高 (除く正常債権) / 総与信 *2 内部管理ベース

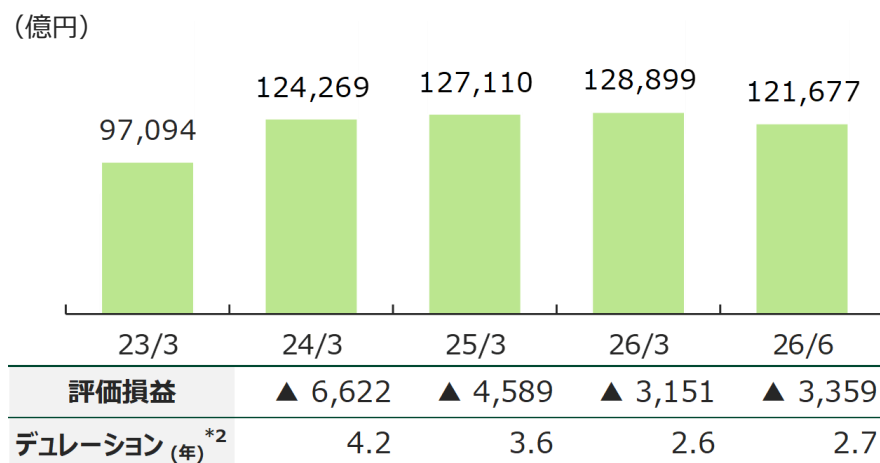
有価証券

▶ その他有価証券の内訳（連結）

(億円)	残高		評価損益	
	26/6末	26/3末比	26/6末	26/3末比
満期保有目的	60,249	+13,696	▲2,685	▲898
その他有価証券	332,755	▲15,268	34,432	+2,230
国内株式	36,990	+1,957	26,969	+1,997
国内債券	63,999	▲11,568	▲3,191	▲479
うち国債	44,009	▲10,756	▲1,629	▲424
その他	231,766	▲5,657	10,655 ^{*1}	+712
うち外債	180,061	▲5,287	▲3,436	▲431

ヘッジ取引も活用し、リスク量はコントロール

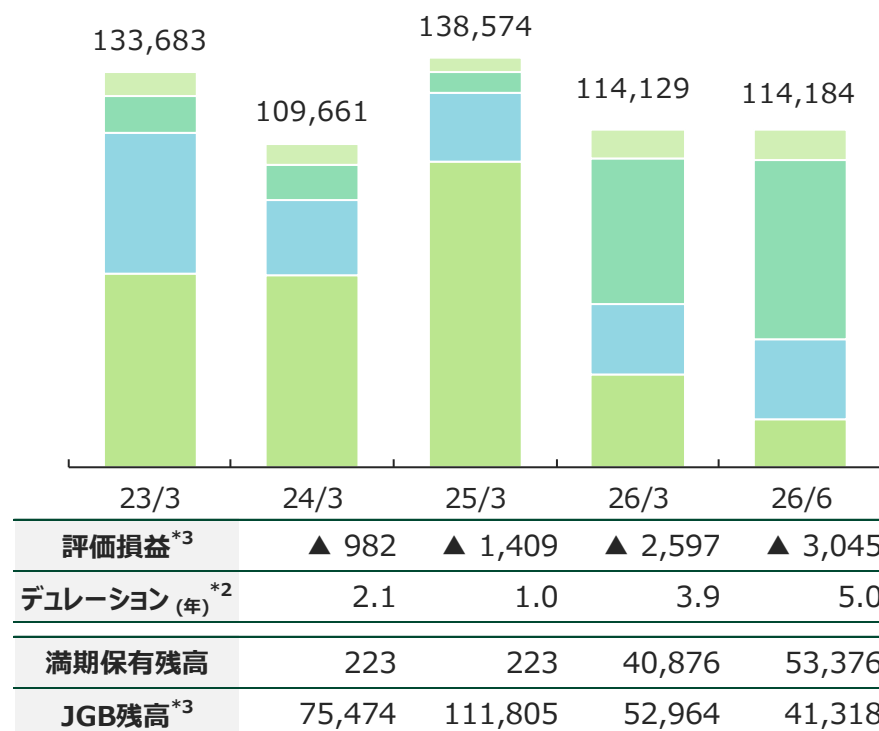
▶ 外債（SMBC）



▶ 円債（SMBC）

(億円)

■ 1年以内 ■ 1年超5年以内 ■ 5年超10年以内 ■ 10年超



*1 外国債券との差額は外国株式等 *2 内部管理ベース。ヘッジ会計適用分・満期保有分を除く、私募債を含まず

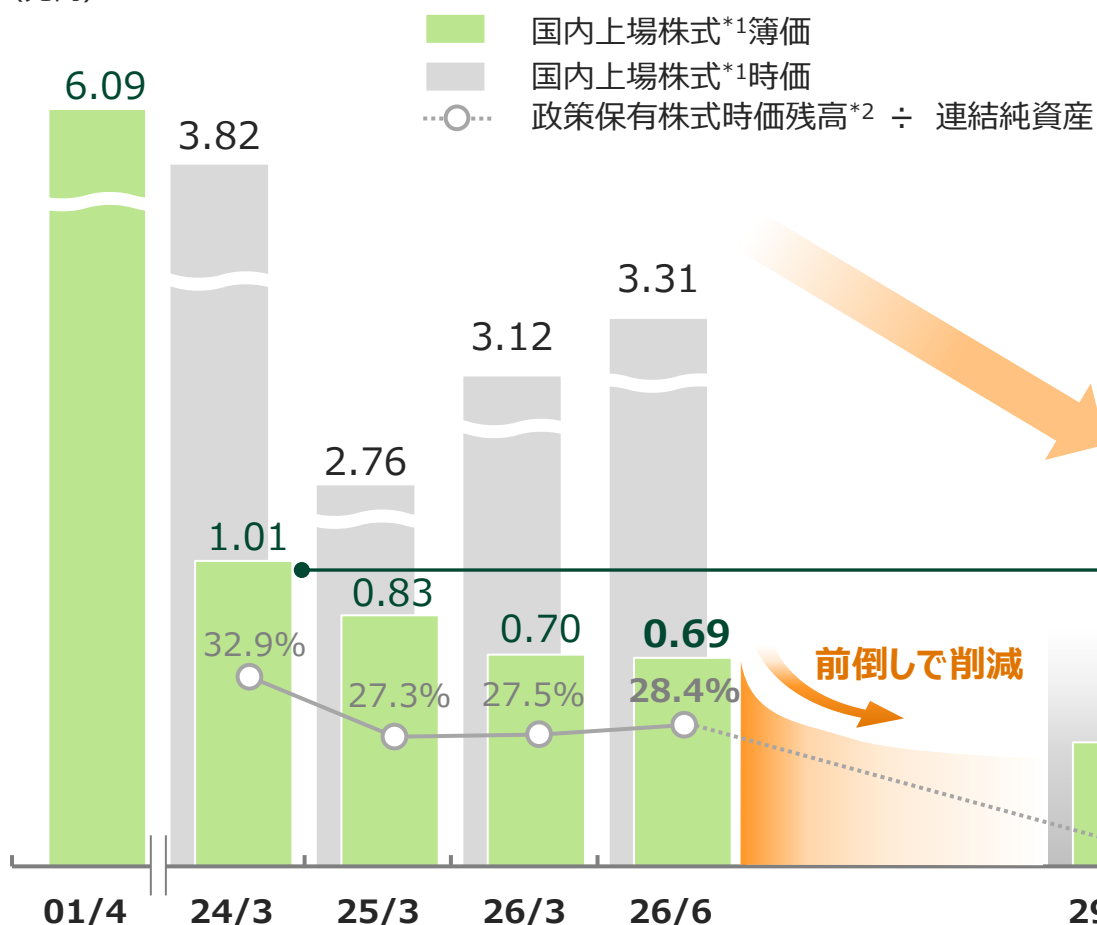
*3 満期保有目的を除く

政策保有株式

26年度も削減計画の年間標準進捗となる簿価1,200億円削減に向けて取組を推進

足元の株価上昇で、連結純資産に対する時価残高比率の上昇が続いているため、時価残高の削減にも注力

(兆円)



削減状況

削減額	△3,250億円
24年度	△1,850億円
25年度	△1,240億円
26年度1Q	△160億円
応諾済未売却額	600億円

削減計画 (24-28年度)

△6,000億円

目標: 20%未満

*1 20/3末以降の業務提携目的の出資を除く *2 有価証券報告書に記載される「みなし保有株式」の残高を含む

バランスシート

▶ 連結B/S

() 内は26/3末比

貸出金	
119.8兆円 (+2.1兆円)	
国内貸出金 ^{*1}	73.3兆円

有価証券	
40.0兆円 (+0.0兆円)	
国債 ^{*2}	4.4兆円
外国債券 ^{*2}	18.0兆円

その他	
167.7兆円 (▲3.1兆円)	
現預金	71.5兆円
日銀当座預金 ^{*1}	51.0兆円

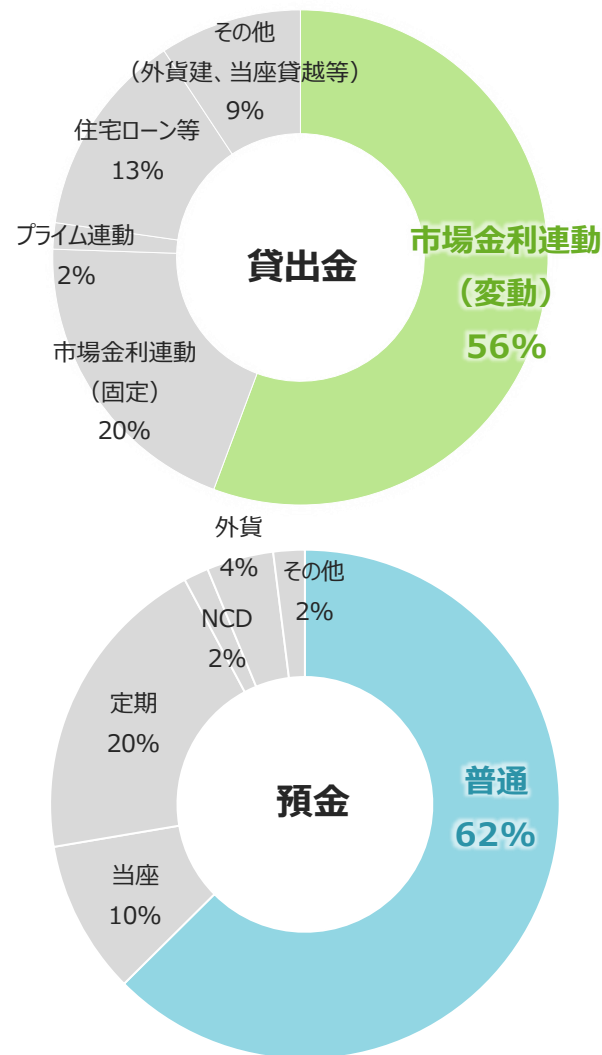
預金	
200.4兆円 (▲1.0兆円)	
預貸率 59.8%	
国内預金 ^{*1}	136.8兆円
譲渡性預金 (NCD)	13.6兆円

その他	
110.9兆円 (▲0.3兆円)	

純資産	
16.2兆円 (+0.3兆円)	

総資産 327.5兆円 (▲1.0兆円)

▶ 国内預貸金の構成比 (SMBC) ^{*3}



*1 SMBC *2 満期保有目的を除く *3 内部管理ベース

外貨流動性

▶ 外貨B/S*1,2

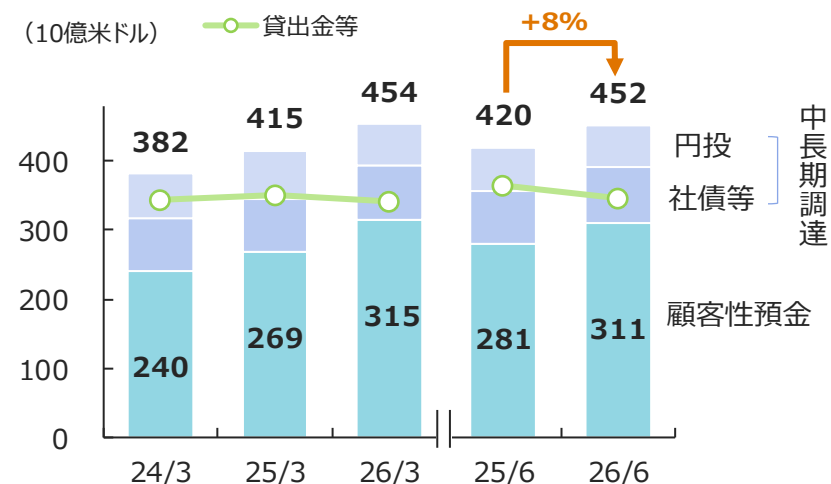
(10億米ドル、()内は26/3末比)

貸出金	顧客性預金 (含む中銀預金)
345 (+4)	311 (▲4)
その他	中長期調達 (社債、円投等)
199 (▲4)	140 (+2)
外債、NCD	CD/CP
81 (▲4)	84 (▲9)
	インターバンク (含むレポ)
	89 (+7)

資産・負債 625 (▲4)

▶ 外貨ファンディング

(10億米ドル) 〇 貸出金等



(参考) 外貨金利の変動影響

預貸金

- 貸出金・預金とも、大宗は基準金利連動
- 一部、金利感応度の低い流動性預金によって
外貨金利±1.0%で資金利益±200億円

事業部門別実績①

▶ リテール

- 金利上昇に伴う預金収益増加と、良好なマーケット環境を踏まえた好調な資産運用ビジネスにより業務粗利益は増加
- コストコントロール施策の着実な積み上げにより経費率が改善、業務純益も増加

	26年度 1Q	前年 同期比 ^{*1}	
(億円)			
業務粗利益	4,288	+705	
うち預金収益	681	+225	
貸金収益 ^{*2}	153	▲30	
資産運用ビジネス	1,315	+365	
決済ビジネス	1,519	+97	
コンシューマーファイナンス	831	+60	
経費	▲3,092	▲257	
(経費率)	72.1%	△7.0%	
業務純益	1,209	+456	
	25年度	26年度 1Q	中計目標
AM・外貨残高 (兆円)	23	25.7	28
買物取扱高 (兆円)	39	9.9	55
Olive獲得件数	26/6 : 800万件突破		

▶ ホールセール

- 預貸金残高の増加に加え、利回り差の改善により、預貸金収益は大幅に増加
- コーポレートアクションの活発化により手数料収益も増加し、業務粗利益・業務純益ともに増益

(億円)	26年度 1Q	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利益	3,721	+673
うち預金収益	1,037	+300
貸金収益	784	+124
うち SMBC		
外為・為替手数料	414	+36
シンジケーション	125	+14
ストラクチャードファイナンス	205	+87
不動産ファイナンス	29	▲24
証券	220	+2
経費	▲1,269	▲131
(経費率)	34.1%	△3.2%
業務純益	2,715	+497
Trunk獲得件数	26/7 : 9万口座突破	

*1 内部管理ベース（為替影響等調整後） *2 コンシューマーファイナンスを除く

事業部門別実績②

▶ グローバル

- 貸出金の選別的な取組により貸金収益が減少し、業務粗利益は減益
- 経費の増加に加え、SMBCACの保険金受領の剥落により持分法損益が減少し、業務純益も減益

(億円)	26年度 1Q	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利益	3,867	▲ 66
うち預金収益	503	+21
貸金収益	1,384	▲ 74
ローン関連手数料	804	+10
証券	360	+102
経費	▲2,691	▲172
(経費率)	69.6%	▲5.5%
持分法投資損益	273	▲ 126
業務純益	1,512	▲ 374

	25年度	26年度 1Q	中計目標
アジアマルチフランチャイズ			
ボトムライン貢献利益 (億円)	500	230	1,400

▶ 市場

- 株高な環境を捉えた機動的なポートフォリオ運営により、業務粗利益は大幅に増加
- S&Tビジネスも着実に拡大し、業務純益も増益

(億円)	26年度 1Q	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利益	2,335	+737
うちSMBC	1,757	+642
SMBC日興	376	+99
経費	▲629	▲101
(経費率)	26.9%	△6.1%
業務純益	1,789	+639

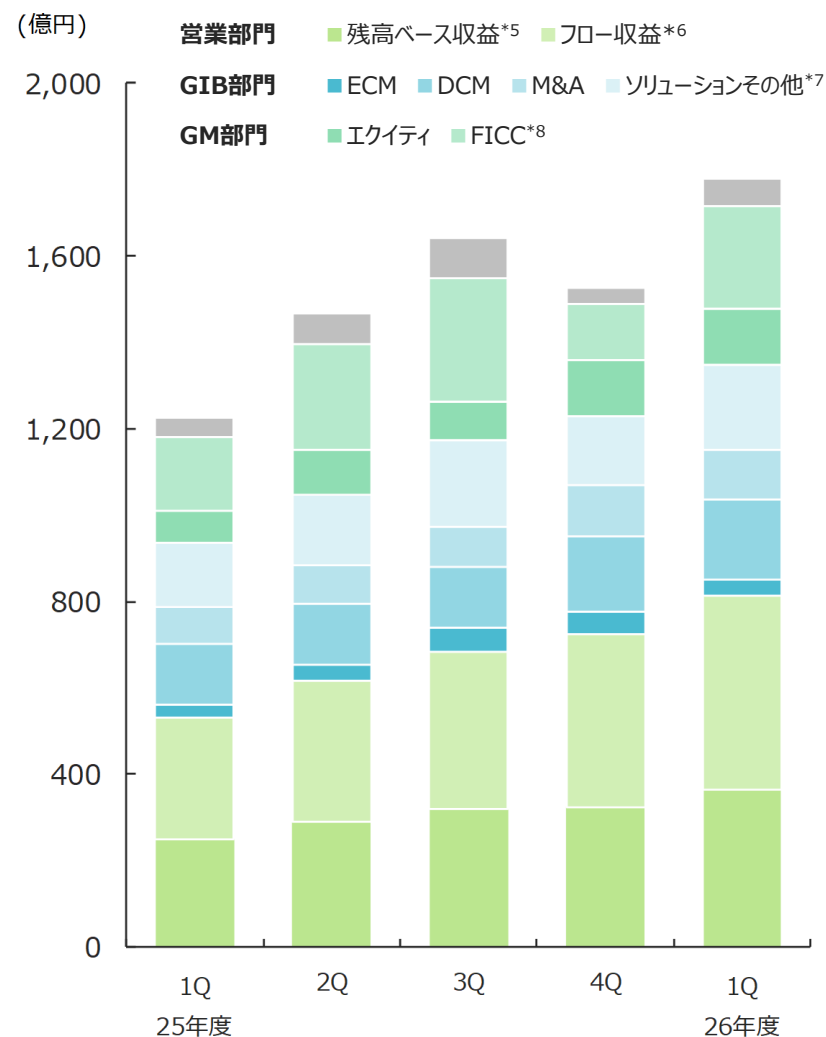
	25年度	26年度 1Q	中計目標
S&T収益 (億円)	3,770	1,038	5,000

*1 内部管理ベース（為替影響等調整後）

業績

(億円)	25年度	26年度 1Q	前年 同期比
純営業収益	5,864	1,779	+552
販売費・一般管理費	▲4,707	▲1,286	▲237
営業利益	1,157	493	+316
うち営業部門	684	308	+203
GIB部門 ^{*2}	481	173	+60
GM部門 ^{*3}	▲147	▲25	+33
経常利益	1,305	525	+319
当期純利益	1,283	371	+175
預り資産残高 ^{*4} (兆円)	91.1	100.0	

純営業収益



*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Markets等の利益を含む内部管理ベース

*2 グローバル・インベストメント・バンキング部門 *3 グローバル・マーケット部門 *4 SMBC日興単体

*5 投資信託・保険の代行手数料、FW報酬等 *6 株式委託手数料等

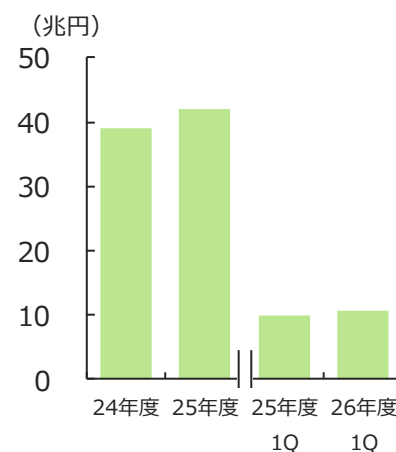
*7 バランスシートやデリバティブを活用したソリューションビジネス等 *8 Fixed Income, Currency and Commodities

SMCC (SMBCCFを含む)

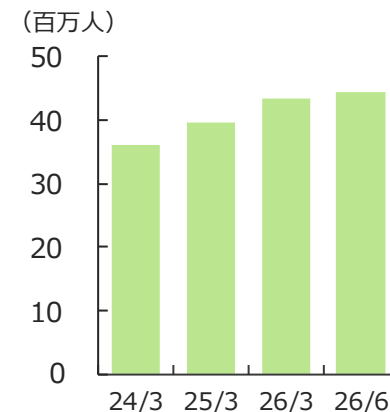
▶ 業績

(億円)	25年度	26年度 1Q	前年 同期比
営業収益	10,347	2,719	+225
うち買物手数料	2,851	778	+106
ファイナンス	3,507	927	+78
うちSMBCCF	1,693	454	+46
信販・収納代行	831	217	+7
信用保証収益	874	218	▲2
営業費用	▲8,979	▲2,512	▲244
うち貸倒費用	▲1,341	▲403	▲42
うちSMBCCF	▲720	▲246	▲33
利息返還費用	0	0	-
債務保証費用	▲87	▲13	△6
経常利益	1,365	209	▲46
うち営業外収益	65	13	▲25
営業外費用	▲68	▲11	▲2
親会社株主純利益	1,057	145	▲178
不良債権比率 ^{*1}	10.53%	10.61%	
利息返還損失引当年数 ^{*1,2}	13.0年	15.0年	

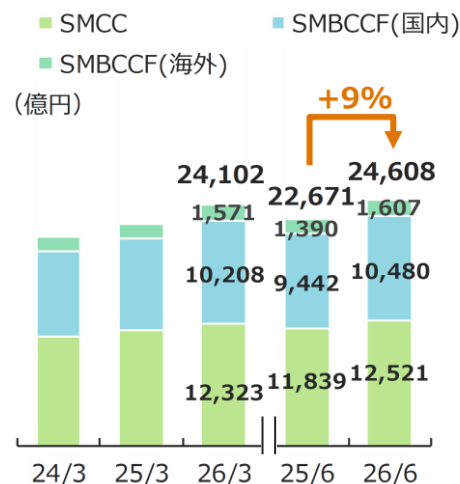
▶ 買物取扱高



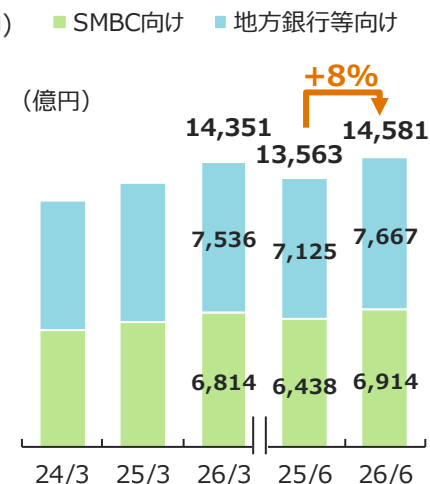
▶ 会員数



▶ ファイナンス残高^{*3}



▶ 保証残高^{*1}



*1 SMBCCFのみ *2 引当年数 = 利息返還損失引当額 / 当該年度の利息返還額 *3 SMBCモビット再編影響を遡及反映

SMBC GROUP REPORT 2026（統合報告書）発行のお知らせ

中長期的な企業価値向上に向けた取組や、新たに発表した中期経営計画の内容について、
経営陣からのメッセージや従業員へのインタビュー等のコンテンツを通じて紹介

CEOメッセージ



特設サイトはこちら

<https://www.smfg.co.jp/gr2026/>



CFOメッセージ

MESSAGE FROM GROUP CFO

重点戦略領域への経営資源配賦と
事業ポートフォリオ変革を通じ、
成長を伴った収益性のさらなる引き上げと
持続的な企業価値の向上を
追求していきます。

取締役 執行役専務
グループCFO兼グループCSO
安地 和之



社員インタビュー



社外取締役座談会

DIALOGUE

社外取締役座談会

リスク座談会



本資料には、当社グループの財政状態及び経営成績に関する当社グループ及びグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」、ならびに、環境、社会及びガバナンスにかかる当社グループのサステナビリティに関連する活動に関する記述（「サステナビリティに関する記述」）が含まれております。

多くの場合、これらの記述には、当社グループの将来に関する事項を表す「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績や結果を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績や結果は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」及び「サステナビリティに関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績や結果に影響を与え得るリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有する有価証券の時価の下落、不良債権残高及び与信関係費用の増加、当社グループの国内外におけるビジネス戦略が奏功しないリスク、提携・出資・買収及び買収後の経営統合が奏功しないリスク等です。こうしたリスク及び不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」及び「サステナビリティに関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」または「サステナビリティに関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。また、「サステナビリティに関する記述」における、当社グループのサステナビリティに関連する取組については、当社グループのリスク管理及びその他の投融資等の目的を推進しそれらに対応することを目指す、当社グループが独自に決定した方針と方法に基づき行われ、また個々の決定は各法域において適用される法規制に基づき、それに従って行われます。当社グループの財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。

為替レート（月末TTM）

	25/6末	26/3末	26/6末
1ドル	144.81円	159.90円	162.39円
1ユーロ	169.67円	183.44円	185.30円

▶ 本資料における計数、表記の定義

SMFG	三井住友フィナンシャルグループ（持株会社）
SMBC	三井住友銀行
SMBC信託	SMBC信託銀行
SMFL	三井住友ファイナンス&リース
SMBC日興	SMBC日興証券
SMCC	三井住友カード
SMBCCF	SMBCコンシューマーファイナンス
SMDAM	三井住友DSアセットマネジメント
SMBCAC	SMBC Aviation Capital
SMICC	SMFG India Credit Company
主要現地法人	SMBCバンクインターナショナル、 SMBCバンクEU、三井住友銀行（中国）
連結	三井住友フィナンシャルグループ連結
経費（SMBC）	臨時処理分を除く
業務純益	一般貸倒引当金繰入前
親会社株主純利益	親会社株主に帰属する当期純利益
リテール事業部門（RT）	国内の個人向けビジネス
ホールセール事業部門（WS）	国内の法人向けビジネス
グローバル事業部門（GB）	海外ビジネス
市場事業部門（GM）	市場関連ビジネス

※資本・リスクアセットの開示は2026年8月14日を予定しております。